

あした 未来へつなぐ

【安全への取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



「踏切事故防止キャンペーン」は年4回。次は厳寒期の1月に行われる。このほか、毎月23日の「踏切の日」にも実施。

冬の踏切は危険がいっぱい！ 「踏切事故防止キャンペーン」により 「踏切事故ゼロ」を目指す ～JR北海道～

本

格的な冬を迎える直前、JR北海道では、

北海道、北海道警察や各自治体が主催する「冬の交通安全運動」に合わせて、全道で「冬の踏切事故防止キャンペーン」を実施していきます。今年も十一月十五日(二十四日の十日間。キャンペーン初日は、札幌駅前や道内各地の主要地区で出発式

を行い、その後、札幌では啓発活動としてススキノまでパレードを練り広げます。

北海道の場合、踏切事故の約六割が十二月～三月の冬期に集中しており、ドライバーはよりいつそうの注意が必要です。キャンペーン期間中は、交通量の多い踏切を中心にドライバーにチラシを配布し、踏切事故防止をアピール。札幌

では、函館本線や千歳線、学園都市線の踏切付近など約十カ所を実施します。それに加え、桑園自動車学校で開催される「交通安全祭」でも啓発活動を開始したほか、運輸局等と連携して、自動車運送事業者の運転管理者に対して踏切事故防止について

の講習を行うなど、活動範囲も少しずつ拡大しています。こうした取り組みのかたわら、高さ制限を超えたトラックなどの走行による架線切断事故を防ぎ、遠くからでもよく見えるオーバーハング型警報装置の設置、踏切のいらない立体交差への転換など、さまざまな角度から踏切事故防止対策を講じています。今年六月の学園都市線の電化開業にあたっては、オーバーハング型警報装置を十カ所に設置しました。

では、万が一、踏切内に車が閉じ込められてしまった場合、どう対処すればいいのでしょうか。まず脱輪などで車が動かない状態のとき、最も重要なのは車から降りて身の安全を確保す

ること。それから踏切に設置されている非常ボタンか自動車の発炎筒で、列車の運転士に異常を知らせます。また、車が動くのであれば、そのまま進むことで遮断ポールが斜めに押し出され、簡単に踏切から脱出することができません。踏切には必ず無料のフリーダイヤルが書かれた看板が設置されており、それを使って列車の運行管理を行う指令センターに直接事態を通報することも可能です。

JR北海道では、同キャンペーンを年四回展開し、継続的に踏切事故の防止を訴えることで、「踏切事故ゼロ」を目指していきます。

JR北海道では、同キャンペーンを年四回展開し、継続的に踏切事故の防止を訴えることで、「踏切事故ゼロ」を目指していきます。



毎年、札幌駅前で関係者による出発式を実施。JR北海道からは約100名が参加。



万が一のとき、列車の運転士に異常を知らせる踏切の非常ボタン。